

東北では地震で多くの方が被害にあわれております。少しずつ復興に向けての取り組みが行なわれ、自然豊かな東北地方になるように心から願っています。

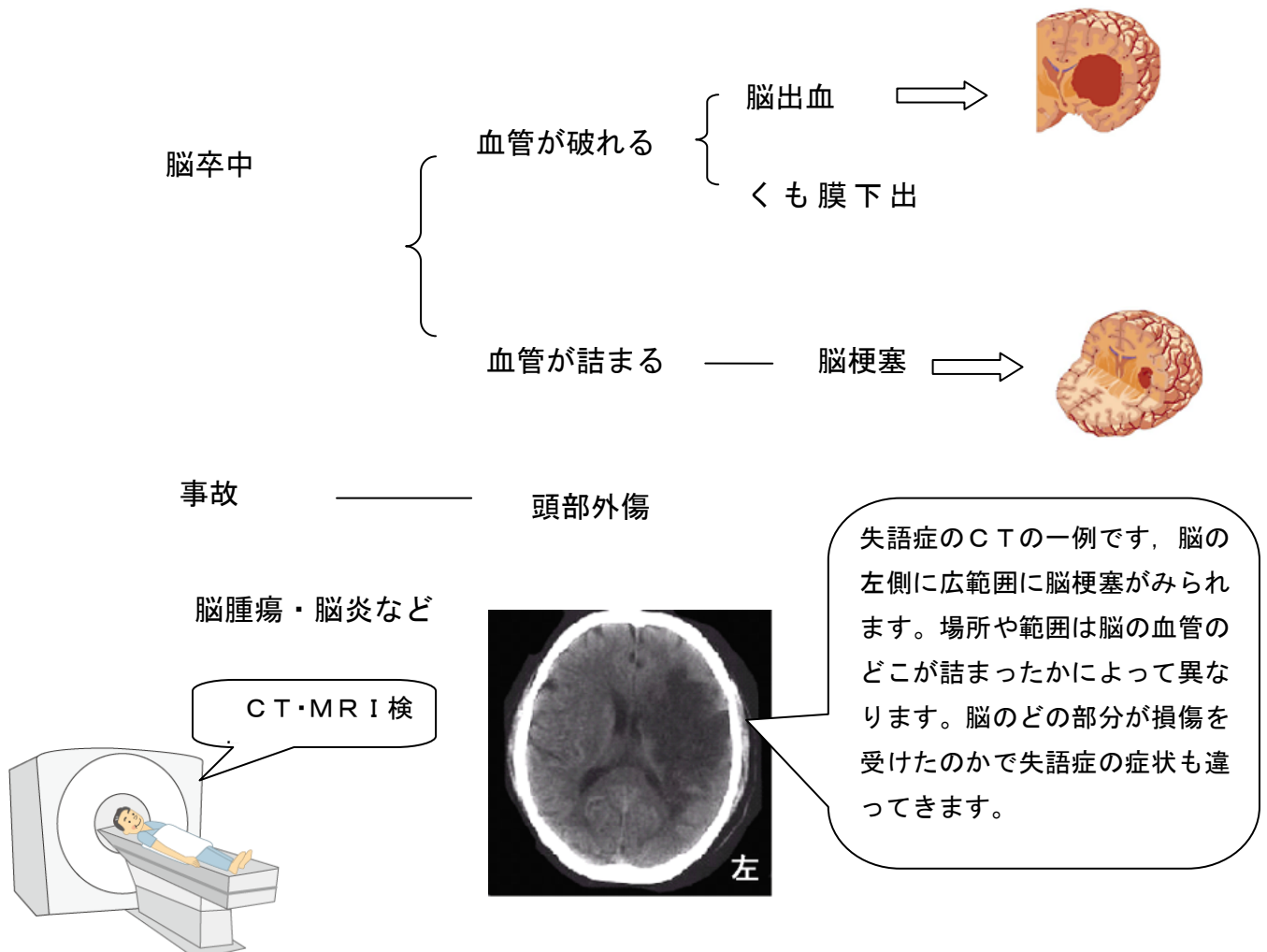
今回は失語症の症状についてでしたが、今回は、どのような原因で失語症になるのか、ことばに関する脳の働きについて簡単にご説明したいと思います。

失語症の原因



失語症は脳の言語中枢に損傷を受けることによって言語を使う能力に障害が残った状態のことをいいます。失語症を起こす原因の8割を脳卒中が占めています。脳卒中には血管がつまってその先の脳が障害を生じる『脳梗塞』と脳の血管が破裂して出血し脳の組織を壊す脳出血、くも膜下出血などがあります。脳は血管から栄養をえています。血管が詰まる、破れることで循環がうまくいけなくなると栄養が補給できなくなりその先にある脳の細胞がダメージを受けてしまいます。その他、交通事故などによる頭部外傷や脳腫瘍などの脳の疾患によっても失語症を起こすことがあります。

失語症の原因となる脳卒中などを調べるためにCTやMRI検査などの画像診断が使用されます。それにより脳のどの部分が損傷を受けているのかがわかります。



ことばに関する脳の働き

脳は、大脳、小脳、脳幹から構成されています。大脳は運動や感覚の機能、コミュニケーション(話す・聴く・読む・書く)、記憶、感情などの高度な機能を動かしています。

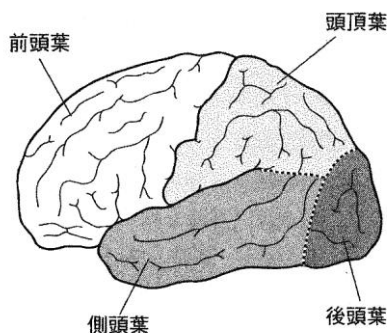
大脳は左右の半球からなっており、脳の表面には多くの溝があります。大きな溝を境目にして前頭葉、側頭葉、頭頂葉、後頭葉に分けられます。それぞれの部分が様々な役目をもっており、人間が生活していくために必要な機能に関連しています。脳が損傷を受けた場合、人によって受けた場所や大きさが異なるため現れる症状も異なります。

言語野は前頭葉、側頭葉、頭頂葉にまたがっています。前方のブローカ野、後方のウェルニッケ野は発話と理解に関係があり、頭頂葉は文字の言語に関係があるといわれています。言語野は利き手と関連があり、右利きの多くの方が左半球に言語野があります。左利きや両手利きの方は60~70%の方が左半球に言語野があるといわれています。失語症のほとんどは左半球の言語野が損傷を受けた時に起こります。

脳は神経細胞と神経線維から成っています。それぞれの部分はネットワークで繋がっています。ことばには脳のいろいろな部分に関わっています。



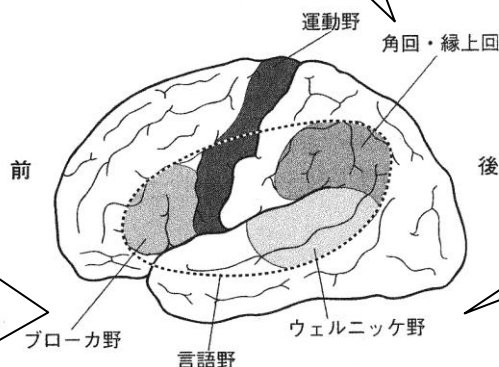
脳の構造 (左側から見たところ)



角回が障害されると仮名文字の読み書きが難しくなるという症状が多くみられます。

ウェルニッケ野はことばの理解に関係があるところです。ここが障害されると聞いたことばが何を意味するのか理解できなくなるという症状が多くみられます。

ブローカ野は発話に関係があるところです。ここが障害されると限られた単語しかいえないなど話すことが難しくなるという症状が多くみられます。



ことばに関係する脳の構造